



鈴鹿の

# レガシー

～写真でみる80年～

1942(昭和17)年12月1日に誕生し、今年で市制施行80周年を迎える鈴鹿市。80周年にちなみ、このコーナーでは本市の発展を振り返ります。

## ◆ 県道鈴鹿環状線(通称:中央道路)周辺 ◆

本市のメイン通りともいえる県道鈴鹿環状線(通称:中央道路)。現在、沿道には、大型商業施設や大規模工場をはじめ、多くの店舗などが立ち並んでいます。現在と比較することで、市の発展ぶりを垣間見ることができます。



出典:三重県における空中写真(市町共同)撮影成果(令和2年度)



昔(昭和27年)



出典:米極東空軍撮影の空中写真(昭和27年撮影)

昔(昭和41~42年頃)



## ひと・まち・モータースポーツ

### 子どもたちに夢と挑戦を「本物の世界を知る」

鈴鹿モータースポーツ友の会では、これまでに通算500人近い地元の小・中学生の子どもたちに、レーシングドライバーが運転するクルマの助手席で、サーキットでの走行を体験してもらってきました。その名も「本物の世界を知る」。

これは、F1や8耐が行われ、世界中のドライバーが憧れるわがまちの財産ともいえるべき「鈴鹿サーキット」を舞台に、レースの世界で頂点を目指し続けた地元プロドライバーが運転するクルマの助手席に乗り、そのスピード感や遠心力などを五感で感じて、プロの運転と「鈴鹿サーキット」を体感してもらおうというものです。

このイベントは、子どもたちが地元で誇りを持ち、本物に触れる経験を通して、やがては自らのさまざまな夢に挑戦してくれる若者に育ててほしいという思いが込められています。

将来は、鈴鹿市から世界を揺るがすような人がたくさん生まれてくれるといいですね。



▲過去の同乗走行体験での一コマ

※今年の開催については、8ページ情報館をご覧ください。

ふくやまひでお

■福山英朗(鈴鹿モータースポーツ友の会 副理事長)

## キーボード



4月に広報の担当になり、早くも3カ月が経過しました。今回、初めて特集を編集することとなり不安もありましたが、無事発行することができ、正直ほっとしています。

今回の特集では、これからの時季に発生が懸念される風水害を紹介しました。いつ起こるか分からないからこそしておきたい災害への備え。私が特に重要だと思うことは備蓄です。災害時は「水」や「食料」に困りますが、それと同様に困るものが、大雨時、排水機能の低下や停電の影響で使えなくなる「トイレ」です。そうなったときに備えて、わが家は水がなくても使える非常用簡易トイレを、家と車に備蓄しています。簡易トイレはホームセンターなどで購入できますので、皆さんもご検討ください。

他にも薬など借りられないものの備蓄も大切です。日頃から考え、災害に備えたいものですね。(由)